

## 信太山丘陵の自然と文化

信太の森FANクラブ 花 田 茂 義

Nature and culture of Shinodayama Hills. Hanada Shigeyoshi (*FAN club of Shinoda-no-Mori*)

2004年（平成16年）、信太山丘陵のほぼ中心部に位置する16haの土地が和泉市有地となった。これは、自衛隊演習場内に点在する介在民有地の解消事業として、防衛庁（当時）と協同して和泉市が演習場内の民有地（耕作地）を買い取り、その等価面積を防衛庁と交換したものである。和泉市はこの事業計画に際し、新しい市有地の利用計画として「北地域公共施設整備事業」（平成15年）を策定、「スポーツ・レクリエーション施設（野球場・多目的グラウンド・テニスコート）」を中心とした開発計画を準備した。

この計画地域には、生物多様性に富む信太山丘陵の中でも特筆される湿地を数ヶ所含んでおり、貴重な自然環境破壊が懸念される。幸いなことにこの計画は、和泉市の財政事情により、2010年（平成22）度まで凍結されることとなり今日を迎えている。

2009年の春、「信太の森FANクラブ」は「泉州の自然と文化財を守る連絡会議」とともに新しく和泉市有地となった信太山丘陵の16haを大型開発は止めて、大阪府自然環境保全条例にもとづく「緑地環境保全地域」に定め、「里山自然公園」として活用してほしいという「署名運動」を展開し、6月に登場した辻宏康新市長に提出した。新市長は、「開発計画の見直し」と「緑地環境保全地域について検討する」と約束した。しかしこの

ことは、単なる入り口に立ったにすぎず、開発計画は今後も絶えず綱引きの状況におかれるであろうことは間違いなく、信太山丘陵の自然環境を再認識し、大阪のオアシスとも云える豊かな自然を保全し、活用する道を模索し、構築していかなければならないと考えている。

さて、私は信太山丘陵の自然と歴史・文化についてその概略をお話し、話題提供としたい。

私たちは開発計画を変更して、仮称「信太山里山自然公園」としての活用を要望しているが、内容の検討として、大阪を代表する生物の多様性にあふれた自然環境の保全を核としながら、信太山丘陵の歴史遺産や文化遺産を取り入れたり、あるいはネットワーク化を図ることが大切ではないかと考えている。

### 弥生・古代の信太山丘陵

信太山丘陵は、和泉市の北部に位置し、海拔40m～80mの丘陵が約300haに渡って広がり平野部に続いている。地元では通称「信太山」と呼ばれている。周囲は市街地に囲まれ、まさに生きている化石のような自然・歴史環境を今に遺している。

弥生時代から古代の信太山丘陵には大きく三つの特徴的な歴史遺産がある。一つは弥生時代の集落跡、二つ目は和泉黄金塚を筆頭に信太千塚と呼

ばれる古墳群，そして三つ目は須恵器の窯址である。

### 大野池遺跡，惣ノ池遺跡

弥生時代後期（3世紀後半），それまでの平地から台地へ弥生時代ムラの移住が各地に見られる。「魏志」でいう「倭国の大乱」という時期にあたり一時高地に逃れたのではと考えられ「高地性集落」などと呼ばれている。信太山丘陵の「大野池遺跡」，「惣ノ池遺跡」がそれに該当し，どちらも丘陵部の先端に突き出た，見晴らしの良い地形を利用している。まさに砦のような位置関係である。市内では観音寺遺跡（観音寺町）にも同様の集落遺跡がある。

惣ノ池遺跡は7戸の住居跡が発掘され，中には鉄器生産を伺わせる工房跡もあった。発掘報告書では「近畿の弥生時代集落でこのような工房が発見されたことは前例がなく，きわめて重要である」（和泉市教育委員会，1970）と報告している。鶴山台団地の造成で大半が破壊されたが，中心部は「惣ヶ池公園」として埋めもどされた。ただ，周辺が何処まで広がっていたかは不明で，今度市有地となった16haの範囲まで広がっていた可能性もある。

### 和泉黄金塚古墳

二つ目は，和泉黄金塚古墳を筆頭にした古墳群である。

和泉黄金塚古墳の築造は古墳時代前期末（4世紀末）と考えられ，全長94m，丘陵の北端をうまく利用した前方後円墳である（図1）。特に，この古墳の発掘された昭和25～26年，「景初3年銘の銅鏡」（画文帯四神四獣鏡）の出土が大変な話題となった。戦後考古学でも東の登呂遺跡とならび西の黄金塚と云われたほどで，いわゆる「邪馬台国」の女王卑弥呼が魏に使いを送ったのが景初

3年（239年）であり，卑弥呼がもらった鏡でないかと邪馬台国論争にまで影響を与えた（図2）。

豊富な副葬品が出土した前方後円墳として，2008年3月，国史跡に指定された。出土品は一括重要文化財として国立博物館で保管されている。和泉市では，周辺整備のための委員会が発足しており，棚田を活かした景観の保全も検討されている。2008年のシンポジウム「和泉黄金塚古墳を考える」において，パネラーの宗田好史氏は黄金塚周辺の美しい田園風景を遺すことを主張し「史跡整備の名を借りて，現在の景観を変えるということは21世紀和泉市のまちづくりにとって大きな暴挙といえる」と警鐘を鳴らし，「和泉市の都市計画行政に求められるのは黄金塚古墳整備に合わせた信太山丘陵の景観の修復という大事業である」（宗田，2008）と述べられている。

仮称「信太山里山自然公園」を検討する上で国史跡和泉黄金塚とのネットワーク化は最も大切にしたいものだと考える。

その他丘陵山麓に点在する古墳や6世紀から7世紀にかけて，信太千塚とよばれる群集墳が約100基信太山の西側に集中して築造されている。

### 須恵器の生産

須恵器とは大陸より5世紀の初め頃伝来した灰褐色の硬い陶質の焼き物で，信太山丘陵から堺市の泉北丘陵一帯に1000基に及ぶ窯址が知られ，「陶邑窯址群（すえむらかまあとぐん）」と呼ばれている。わが国最初の窯址の一つといわれるのが鶴山台団地の造成で消えた「濁り池窯址」（図3）で，「和泉市史」では「須恵器の生産は和泉市内の丘陵，特に信太山丘陵内の谷状の地形で開始された」と述べている。まさに，信太山丘陵は日本陶器のふるさとと云える。

須恵器の生産はa穴窯（登窯のもと）（図4）で同時に大量の土器を焼くことが可能となり，b

高熱で焼くため（1100度C以上）硬く、陶質となり、ころくろの使用により大量の同一規格も可能になるというそれまでの土器と比べると数段の技術革新であった。しかしそのため、大量の燃料（マキ）が必要とされ、燃料の樹木を求めて、数年を単位に窯を移築し、南へ南へと広がり「陶邑窯址群」を形成したと考えられる。

こうして須恵器生産を通じて信太山丘陵の樹木は大量に伐採され、植生は大きな変化を受けたと

思われる。

窯址は信太山丘陵内では約30近くが確認されており、開発計画の16haの中にもその可能性は否定できない。また、信太山里山自然公園の中でも窯跡の再現、須恵器の再現と体験なども検討したい内容だと考える。



図1. 和泉黄金塚古墳（4世紀末）。信太山丘陵の北端部、地形を利用した前方後円墳。（「和泉黄金塚古墳を考える」2008より転載。和泉市教育委員会より転載許可済。）



図3. 窯址遠望。（「濁り池須恵器窯址」1999より転載。信太山遺跡調査団より転載許可済。）



図2. 景初三年銘入り銅鏡（東京国立博物館蔵）。（同左）。

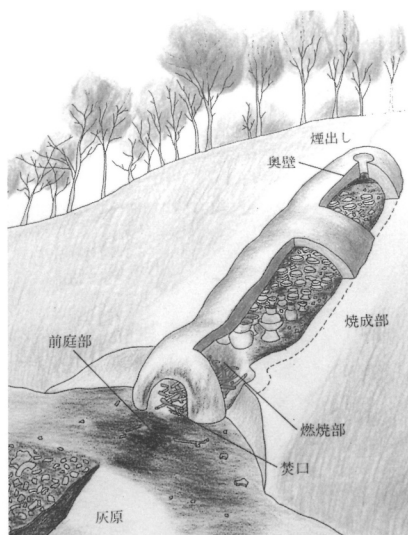


図4. 穴窯の模式図（登窯のもと）。傾斜地20度前後の地形を利用。1100度Cほどにもなり、硬く焼くことができる。信太の森ふるさと館提供。

## ため池の築造

信太山丘陵には沢山のため池が築造されてきた。古くは大野池が6世紀～7世紀頃に築造されていると考えられている。すでに埋め立てられたが取石池（とろすいけ）は万葉集に「妹が手を 取石の池の波間より 鳥が音異（ねけ）に鳴く 秋過ぎぬらし」（巻10）と詠まれている。雨量の少ない信太山周辺では農業生産の進歩に伴いたため池の築造が増えていった。他の泉州地域のため池が平地の部分に多く見られるのに対し信太山丘陵の麓に広がる信太郷では田地の中に作られたため池は全くない。すべて丘陵の地形を活用して、谷を利用して池を築造している。丘陵の北部の台地に位置する上代地区では次のような歴史も語られている。室町時代1557年大干ばつ、大飢饉があった。その時、高僧の阿闍梨長賢道善がこの地に来て、農民を励ましてため池を築造し、それによって36町歩が灌漑された。人々は阿闍梨の徳をたたえ、池を「阿闍梨池（あじゃりいけ）」と呼び、今でも毎年命日（3月18日）に上代の人々は法要を営んでいる（中塚，1987a）。



図5. シリブカガシ（ブナ科マテバシイ属）。9月に花が咲き、翌年11月に熟す。「聖神社」の森には約400本が優占する。

明治18年の地形図を見ると信太山丘陵には約50ヶ余りのため池が確認できる。しかし、現在、約半数に激減した。鶴山台団地の造成が典型的のように多くのため池が埋め立てられていった。

ため池は水辺の景観、水生植物・昆虫、魚類、水鳥など貴重な自然環境と景観を提供しており、文化遺産とも云える。信太山里山自然公園の中にもぜひ取り込みたいものだと考えている。

## 信太の森と文学

信太の森とは丘陵の北部に広がり、その中心部は「聖神社」の鎮守の森だと考えられている。そこには、近畿を北限とするマテバシイ属のシリブカガシが優占している（図5）。聖神社のシリブカガシ林は須恵器の生産で伐採され荒廃した信太山を修復し、農耕のために進んで森を育てたのではないかとする説もある（川本，1987）。

ところで、「信太の森」は文学で取り上げられることが多く、特に和歌では、歌枕として多くの歌人に詠まれている。11世紀能因法師は歌を詠むなら「神奈備の森、生田の森 信太の森」（「能因歌枕」）と3つに数え、また、「健保三年内裏名所百選」に選ばれ、藤原定家ら12人が歌を詠んでいる。

散文では「清少納言」が「枕草子」で「森は信太の森」（95段）と著したのは特に有名で、「源氏物語」にも登場する。このように、都人に「信太の森」が知れ渡るきっかけは、「熊野参詣」が関わっていたと思われる。参詣道は信太の森の麓をほぼ南北に熊野へと続いた。俗に九十九王子の内和泉市内には3つの王子が設けられた。和歌の神様と呼ばれた藤原定家も「熊野御幸記」で信太明神への参詣の様子を著している。また、この街道を舞台に説経節「小栗」が語られてきた、それにちなんで地元では今でもこの道を「小栗街道」と



図6. 木賊獅子. 長野県阿智村木賊獅子保存会.  
「葛の葉」を獅子舞で演じる.

呼んでいる。

#### 「葛の葉伝説」(信太妻)

平安時代の陰陽師安倍晴明（あべのせいめい）の出生の物語は室町の頃より説経節などで語られてきた。大筋は、信太明神に参詣した保名は、狩人に追われる白狐を助け、そのことで狐狩りの石川悪右衛門に捕らえられ危うい命を狐の化身に助けられる。やがて狐の化身葛の葉と保名は結ばれ平穏な日々が続く。ある秋の昼下がり、庭に咲きそう蘭菊に見とれている内に、狐の本性を現して、わが子に見とがめられ、「恋しくば尋ね来てみよ和泉なる信太の森のうらみ葛の葉」の一首を残して森へ帰っていくという物語で、この童子こそ後の安倍晴明であると語られている。1734年、竹田出雲が「芦屋道満大内鑑」という戯曲に集大成し、文楽や歌舞伎で大ヒットした。「親子の別れ」という普遍的なテーマと美しい心の交流が伴って、この物語は時代を超え、ところを超えて広く愛されてきた。今日も各地に伝統芸能と共に伝承されている。

その主なものをいくつか紹介する。

長野県阿智村では「木賊獅子（とくさじし）」



図7. 信太の森歌舞伎こども教室の発表. 地域の伝承を伝えようとこども達が歌舞伎を体験5年が経過した.

保存会が獅子舞でこの物語を演じる。キツネを獅子が演じるわけだが、子別れの場を切々と唄い、舞いあげる演技はかなりの完成度の高い芸能である（図6）。

東北地方は神楽が盛んで、今も東北4県（岩手・宮城・福島・秋田）で約300の神楽サークルがあり、毎年大きな大会を4つ行っている。そして、どの大会でも「葛の葉」が演じられている。

瞽女歌（ごぜうた）は新潟上越市を中心に盲目の女性達が門付け芸として村々を廻った。100ほどの持ち歌の中で、「葛の葉」のリクエストが一番多かったという。そして、本日ここで紹介している間にも大阪の国立文楽劇場で「芦屋道満大内鑑」を人間国宝吉田文雀らが演じている。いずれの場合も「和泉なる信太の森」という例の歌が語られているのだ。まさに「信太の森」は時を超え、ところを超えて人々の心の中へ広がっている。

地元ではこうした全国の伝統芸能に刺激を受け、「信太の森歌舞伎」を結成し、信太の森芸能祭を行って4年になる。「歌舞伎こども教室」は5年目を迎え、今まで70名のこども達が郷土の伝承「葛の葉」を演じてきた（図7）。

信太山里山自然公園を考えると、こうした伝説と伝統を生み出した風土、文化遺産などを結合



図8. 軍馬嘶く信太山（昭和10年頃）。1919年野砲第4連隊の駐屯地となり、軍馬も数百頭いた。草原で休む兵士と軍馬。（「ふるさとの思い出写真集・和泉」1981より転載、国書刊行会より転載許可済）。



図9. 木綿の天日乾燥（昭和41年頃）。和泉木綿は、石津川や槇尾川で晒し、信太山丘陵を利用して天日乾燥が行われていた（同左）。

し、ネットワーク化を図る視点も必要だと考えている。

#### 陸軍演習場と信太山

江戸時代まで信太山丘陵のほとんどは聖神社の境内（260ha）で除地（免税）とされ信太郷7か村の入会地（共有地）であった。明治政府の土地・税制の変革により、明治4年に国へ上地（国へ差し出す）させ、その年に小野善太郎という豪商がそのほとんどを入札し、払い下げられた。明治5年には陸軍演習場が開設され、以後、買収・交換などが繰り返され、昭和16年には最大110万坪（340ha）の広さになった（図8）。

明治時代、各地で共有地が国有地にされるなかで、従来の「入会権」を求めた運動が起こり、信太地区農民も薪・肥料の供給地、水源の供給地を求めて要望し、農民の生活、農業経営に必要な限度において丘陵の一部が「入会権」を認められた。こうして、薪や草刈り時には山焼きなどが行われ、信太山の樹林化を防ぎ、湿地環境を保つ役割を果

たした。

この「入会権」は、昭和35年政府より旧信太村に補償金70万円が支払われて解消した（中塚，1987b）。丁度、自衛隊や演習場の強化を図る動きと重なるころである。しかし、それ以降も人々はかなり自由に演習場に入出入りし、自衛隊も黙認した状態が続いた（図9）。

陸軍・自衛隊の演習場として利用されてきたことは、特に戦後の高度経済成長に伴う開発のはじめとなり信太山丘陵の自然環境を守る役割を果たした。しかし、一方で自衛隊はトレンチなどの掘削訓練や縦横に道路を造成するなど、当然といえばそれまでだが自然環境を守る立場にはなく、演習の陰で消えていったイシモチソウの群落などいくつもの例がある。

民有地の解消事業に伴いわずかの民有地を残して大半が演習場化した。演習場を管理する防衛省とすれば、介在民有地の減少したことで面としての管理が都合良くなった。一帯を金網が張りめぐらされ、かつてのように自由に入出入りできる状況にはなくなった。国際的にはテロリズムへの対策

などといわれてますます管理が強化されている。そのことによって、日本の原風景ともいえる田園景観は減少しセイタカアワダチソウなどの生い茂る荒れ地に変化している。農耕を通じて里山として管理してきた人々の関わりは閉ざされてしまった。入会権のなごりのように人々が山菜採り、キノコ採りや散策で演習場に立ち入ることで、ネザサやススキの成長を押さえてきたこともできなくなった。そして、湿地の乾燥化や樹林化がじわーっと進んでいる。演習場であるから自然環境が守られるという認識は改めなくてはならない新たな状況に來ているのではなかろうか。

今後、「生物多様性基本法」との関わりの中でこうした演習場内の自然環境の保全に法的な対応を必要としているように思う。

以上、概略のお話になりましたが、信太山丘陵の自然と歴史・文化に関する話題提供とします。

#### 引用文献

和泉市教育委員会. 1970. 信太山遺跡調査概要.

6pp. 和泉市教育委員会, 和泉市.

和泉市役所. 1965. 和泉と窯業生産. 和泉市史第1巻 (和泉市史編纂委員会編), pp. 102. 和泉市役所, 和泉市.

川本諭. 1987. 信太の森の起源について一考察. シリブカガシニュース, 24: 10. シリブカガシを守る会.

川瀬一馬 (校注・訳). 1987. 枕草子上. 358pp. 講談社, 東京.

宗田好史. 2008. 都市計画からみた史跡・和泉黄金塚古墳. 「和泉黄金塚古墳を考える」, pp. 54. 和泉市教育委員会, 和泉市.

中塚喬清. 1987 a. 信太郷の水利と灌漑. 「信太郷土史」, pp. 118. 中塚喬清, 和泉市.

——. 1987 b. 農民の生活. 「信太郷土史」, pp. 149. 中塚喬清, 和泉市.

佐々木信綱 (編). 1957. 日本歌学大系第1巻. 75pp. 風間書房, 東京.

澤潟久孝. 2001. 万葉集注釋卷第10. 362pp. 中央公論新社, 東京.

